

# 蠅螂の斧

## 第二部

# トークライブ2001

## 第五回

## 団 士郎

仕事場D・A・N/立命館大学大学院

この連載で何をしたいのかを改めて考えてみた。よく言われるように、世の中の出来事の移り変わりは繰り返すだけだ。テクノロジーの革命的変化は否定しないが、それを享受する側の人間は、怠惰になったりする傾向はあっても、大きく進歩した事実はない。変化はいつも外に起きていて、人間の内側にはそれ程起きない。

だから外界に次々起きる物的変化や、流行の言葉を追いかけていても、大したことは何もない可能性がある。無論、大したことがしたいかどうか、起きて欲しいのかどうかにも議論の余地はあるが。

私には、同じ事を泡（アブク）のように繰り返すのではなく、ささやかで良いから次の一步を刻んでみたいという欲望が強い。だから言葉ひとつとっても、お約束のラベルのようなものを次々合唱する業界人になりたくない。世間が言うことも、業界人が口を揃えることも、心の中で呟く昨今の言い回しも、皆、流行の類型である。

こんなことを言いたくなる理由は、多くの人たちが一所に留まって事態を深めるほど、そこにはいないからだ。誰もがつぎつぎ移ろって、さっさと居なくなってしまう場所に、何かが根ざしたり芽吹いたりはずまい。一生懸命ではない、一所懸命が言葉としては先なのだ。

14年前の日々、私が記述していたものは当時の主観的現在だ。そして今も又、今から10年後から見れば、過去と呼ばれる主観的現在を記述している。比べてみると過去も現在も大した違いはなさそうだ。

常に私はその時の現在にすぎない。現在は、いつもその時の自分でしか語れないということだ。なのに10年経ったら、「過去」という言い方で今のことを語る。

テクノロジーに関わって何かを論証していたなら、その後の10年間に新しいことが発見されて、昔の話は陳腐化しているのかもしれない。しかしそんな中味ではないから、修正したり言い繕ったりする必要もほぼない。私はそんなことを記したいのではなく、時代の事実、現在の主観を述べてきた。それが10年経った今の私に、何に見えているのか。10年の時間が何を及ぼすのか、そんなことを考えたがっている。

樽詰めされていた言葉の封をあけて、空気にさらして、今の自分が味わう。それは昔話とは違うのではないかな。なつかしいだけの過去話などしたいと思わない。「今、だろう」といつも思っている。今が一番面白い。その理由は、沢山の振り返ることが出来る経験を自分の言葉で重ねてきたからだ。

誰かに借りた言葉でその時々をやり過ごすのは、ただの消費者でしかない。そこで何かを見つけることも、気づくこともないだろう。そうではなくありたいと思ったとき、一つの方法として、自分の10年前の言葉を、自身で吟味するのは面白いのではないかと思ったのだ。

# 2001年7月

(14年前)

07/01 日曜日、午後から関西カウンセリングセンターで家族相談士養成講座の講師。会場に川上範夫さん(奈良女子大)が待っていて久しぶりに対面。たいへんな事態のなかでよく生き延びたものだ。受講生65人だが、申し込みは120名を越えたと聴くと、すごいなと思う。センターの常連顧客群がそれだけあるのだろう。

講座のデモンストレーション面接にボランティアで出てくれたDさん。結構たいへんな情況を抱えていることが判明して、どう聴いたらいいものか少々躊躇する。あっという間の3時間はいつものこと。

終了後、受講生のなかにいたNHKの人が、夏休み中の番組出演の打診にくる。企画が通ってタイミングがあえばと答えておく。

旭屋書店で中村正さんの新刊をみる。なかなかきれいな装丁の本である。

川上さんとはそれ程親交があったわけではないが、同時代の業界人。大学が絡んで勢力争いがスキャンダルの様相を呈していた。私は探偵ではないので、真偽など知らない。裁判官になるか、弁護士になるか、検察官になるか。姿勢は個々人で決まっているような気がする。

Dさんは遠方から参加していた人で、これをきっかけに、KISWEC(京都国際社会福祉センター)の通年訓練にも新幹線で毎週通ってきた。人が学びに動機づけられる要因の一つに、個人的事情が大いにあるなと思った。

07/02 産業社会学部の授業12回目。今回は技術と人間をテーマに「人間関係論」。終了後、研究室の床で1時間眠る。起きだしていつものレストランでカレーを食べてクラスターに。村本さんのグループワーク、参考になるところあり。その後、三グループに別れて話し合い。ついつい私が話してしまう。原因のひとつはUさんだったかも。いろいろたいへんな情況での通学だときいているので、氣遣ったのもある。終了後、教員三人で打ち合せと雑談。中村さんにサバティカル(一年の研究休暇)の話があるらしい。しばらく延ばすそうだが…。

大学院がまだ、今の全体体制に固まる前のことのように思う。忘れてしまっている事も多いが、変化し続けているのだなあ。中村さんはこの翌年だったか、サヴァティカルで一年シドニーに滞在。その間の助っ人に、先端研の立岩真也さんがクラスター担当で来てくれた。

07/03 連日熱帯夜だ。クーラーをかけて寝ている。同志社女子大は今日が前期最終講義。今年度いっぱい終了にするかなーと思いはじめている。コスパからいうと、時間を取られすぎるのである。でも、レポート読んだり、顔を見ていると可愛いしなあと思ったり。夜の家族療法訓練には、久しぶりにアンコントロール・チルドレン登場。父親の情けなさや妻の変な自信はパターンのような気がする。

火曜日午後は新田辺の同志社女子大で「ユーモア特論」の授業。その後、夜は伏見桃山でKISWEC家族療法訓練の通年コースを担当。それに、午前中、依頼のあるときには大津家裁で調停の仕事を入れていた。今考えると、よく働いている。五十代半ば、張り切っているなあ。

07/04 予定の少ない水曜日。コロラドで「木陰の物語」の下書き。なかなか決まらなかったが、この線でいこうと決心して描き始めると二時間。仕事場にきて雑用を片づけていると、Nが来る約束の時間になる。1時間半ほど、大学の話や近況の雑談。6時からF君がケースカンファレンスに。今日は彼自身の出身家族について考えたいと話し始める。ルールをきちんと守って、節度を持ちすぎたために感情がどこかに消えてしまった家族の物語だった。今、脳梗塞で入院中の母親の病室が、彼が婿養子に入ったF家のお産を迎えた時の病室と、余りにも違って…と呟く。

彼の父親は妻の病状について、医師に詳しく説明を聞いたりもしない人だという。教員カップルの二人の息子が、故郷によりつかない。彼も家を出たかったという。地元公務員を退職して、婿養子に入ってフリーターとは奇妙な選択だ。

連日、いろんな人にいろんな役割で会っていた。今もまだそういう傾向はある。しかし、そこそこでパートタイム労働をしている気はない。むしろ、自分を浦島太郎化させないように、様々な切り口でモニターしている。蛸壺入り専門家にならないように、業務全般をデザインしているつもりだった。

そして今、その目論見は概ね果たせているように思う。それは、この時期の働き方と今が、それ程変化ないからだ。たいていのまがい物は、説明は大げさな割に続かない。あれは何処に行ったの？と言いたい事象は多い。しかし私の場合、ここに書いていることの大半は、現在も進行中である。

07/05 「木陰の物語」のペン入れの時間が、締め切りまでにどう探しても見つからない。やむなく仕事場泊まり込みで仕上げをする。久しぶりだ。翌朝は、起きてそのまま相談室に。このところ新規相談の予約が減っているので、まあなんとか…と思ったらやっぱり予約ゼロ。昼食のついでに書店をのぞいて5冊購入。趣味的なものばかりだ。「シーナ映画とコーキ映画」高間賢治著、「こんな映画が、」吉野朔美著、「プラハ旅日記」山本容子著、「来て見てトルコ」小林けい著。そして「地球の歩き方 21・イスタンブールとトルコの大地」。

この夏休み、トルコに出かけてみようかと思っている。夫婦二人珍道中にするか、久しぶりにパックツアーの参加者になるか、まだ思案中である。

紙司・柿本から、DAN通信用の紙のカットが出来ましたと連絡あり。夜はぼむの例会に大阪へ。今日の集合は徹底されていなかったのか、みんな忘れている。篠原と坂口の三人だけ。それなりに面白く話して過ごす。

別居、自活をはじめた娘、大学を退学することになりそうな娘。各家庭でいろいろなステージが始まる。

吉野朔美さんは私の新刊「家族の練習問題6」に原稿を寄せてくださっている。山本容子さんのリトグラフが一点、我が家の玄関に架かっている。プラハにはこのしばらく後に妻と二人で旅をした。DAN通信を出していたこの時代、ツイッターやfacebookはまだなく、ホームページ作りが主流だった。なかなかそこには手が出ずにいた。マンガ集団「ぼむ」のメンバー、それぞれの家庭事情

は、この後の10年で大きく変化することになる。今なら全て分かる変化を、この時点には何一つ知らない。人生はそういうものなのだ。そして次の10年もきっとそうなのだ。

07/06 新潟プログラムの準備をする。夕刻のANAに乗るまでにやったらいいのだから、比較的ゆっくりしている。土曜日は三十人、日曜日は二十一人の受講生とのこと。新作・木陰の物語(第十七回)を修正して完成。「少年育成」誌に発送。

八条口から空港バスで伊丹に。レストランで胡麻冷麺をたべて、スタバで金剛出版から出したいと思っている本のプランを練る。定刻発の519便、お婆ちゃんばかりである。なんかそういうツアーで埋める時期なのか。新潟空港から宿舎の厚生年金会館に。ロビーにKさんが待っている。騒がしい居酒屋風の店で、食事をしながらいろいろ話す。つい、相談を受けてしまっている。

木陰の物語17回だと！現在183回だから、よく続いているものだ。「月刊・少年育成」は2011年に休刊になってしまったが、連載は他で続いている。

金剛出版から出したいと思っている本とは「ヒトクセある心理臨床家の作り方」。まだ出ていない時期なのか。

この後も数回、新潟を訪れるようになったが、地域継続プログラム実施の試行錯誤期だといえる時期である。

07/07 さあ、新潟プログラム。第一日は初心者のための講座。話と実習と、ビデオで。30人弱の参加で、初めての人が圧倒的に多い。入門プログラムを繰り返すことの意味は大きいと思う。理論や技法がどんどん進化して、追っかけている人以外、手出しできなくなるパターンは駄目だと思う。なかなか好評裏に一日目終了。

世話人Kさん宅で打ち合せ。こどもたち小学校3年と1年の男兄弟と一緒に回転寿司屋に。おいしい店で一皿100円ではない回転寿司。8時すぎにはホテルに戻って休息。

07/08 第二日は継続的に学習している人たちが中心。順調なプログラムはこびだったと思う。今回は昨日の初任者、今日のリピーターともに、医療関係者比率はそう多くなく、標準的な受講者群。みな、地域で力のある専門家

だという。昨日の感想文を読んで、絶賛に近い反応に喜ぶ。来年の日程の仮押さえも。

この頃から現在に至るまで、地域で家族理解WS(家族療法WS)の継続開催に知恵を絞ってきた。各地で事務局を担ってくれる人たちの苦労を、それ程分かっているとはいえないが、とにかく結果は出る。続いている地域、立ち消えになった地域。

その分析に関心はないが、私的に継続の秘訣は思うことがある。それは受益者自己負担の原則である。予算の組まれたWSは皆終了し、再開することはない。自分たちのお金を出し合い、週末休日に、有志が事務局を引き受けて準備したモノだけが、10年を超えて続いている。

07/09 文学部「人間関係論」の授業最終(来週は群馬行きなので休講)。終了後拍手がわく。何度目かだが嬉しいものである。研究室でゆっくりしていて、院の授業まで過ごす。

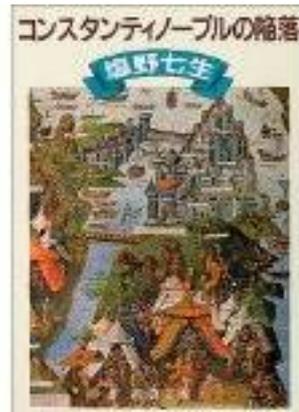
今日は私が家族療法の訓練ビデオを使って、あれこれ話すことになっている。三時間あるので、ゆっくり目にみんなに家族を鑑賞してもらった。終了後、次週私が不在のプログラムや、秋からのことなど話す。文部科学省へ提出の私の業績書も完了のようで、中村さんのペーパーワークに感謝する。

バスでいったん仕事場に戻って、こと葉に電話。今週末群馬に行くが、レッスンとの兼ね合いで会えるか打診。火曜日夜はレッスンだそう。夏休みの帰省も聞くと八月二十日頃になるらしい。二十五日からは我々が海外旅行に出る予定。典子はちょっと迷うが、結局行くという。

娘はまだ舞台芸術学院の二年生。何も決まっていはいないが、合っていた道なのだろう。熱心に学校以外のレッスンにも出向いていた。一年目、女子学生ばかりの管理人の居るマンションに住むよう手配したのだが、その夫婦からがんばりを誉めて貰っていたことを思い出した。そして二年目は一人暮らしのマンションに引っ越したのだった。

07/10 女子大の春学期が終了した。夏の後半の旅はイ

スタンブールに決めてH. I. Sに。窓口の近藤くんは、昨年カトマンズの旅を薦めてくれた担当。トルコ航空直航便は空席待ち、KLMなら確定で一応そっちを確保しておいてキャンセル待ちにする。八月二十五日出発確定である。帰国は航空会社がどっちになるかで多少差がある。その後、夕刻まで仕事場で月刊DAN通信作り。思った感じに仕上げる。kiswec訓練は、子供のいない中年夫婦。こなれたカップルだと思う。よくも悪くも防衛が上手。世間知、如才なしをみる。



イスタンブールは一週間、異国の街を堪能した。塩野七生著「コンスタンティノープルの陥落」をその街角の歴史遺産に居ながら読書する贅沢を体験。これはなかなか楽しいものだった。「読んでから行くか、行ってから読むか」の究極的折衷。

07/11 今日の午前中までがゆったり気味の隙間だった。午後から東大阪市立金岡中学校で教員相手の講演。紹介してくれたT先生は純朴な人。しかし60人くらいとの触れ込みながら、実際は20人弱。教員が駄目なのはこの選球眼の悪さにあらわれている。ここは選んで聞きに来んかい！バカ教師ども！！と思う。本が8冊売れたのだから、来た人は皆思うところがあったのだ。終了後、校長室で1時間ばかり続きの演説をしてしまう。でも教頭は、実はわからない人なのだと思う。無駄だったかもしれない。

大阪にきているので、いどむ(次男)に電話すると、相談があるから会いたいというので仕事が済むのを待つことにした。一日中あちこち営業で出かけているようで、川西で電話に出た。今から会社に戻ってからというので、大阪駅のカフェで、来週の仕事の段取りをあれこれ。ハードスケジュールなのに準備がまだまだ。お茶を飲んで、書

店でめばしいものを見繕って、そのあと梅田新道交差点の会社の前で待つ。我ながら変な父親かも。会えたのは21時15分、しゃぶしゃぶ屋で食事をしながら健康問題(メンタルではなく、痔だ)について相談を聞く。

教師を一般化して語っても意味はないが、教頭の集まりや管理職の研修会に呼ばれての感想を言えば、総じて根拠もなく横着な人が多い。生徒・子どもを相手に過ごし、教員だけのコミュニティでの少々、疎まれ者をやっていると、そうになってしまうところがあるのだろう。

どんな業界にも少なからずあると思うが、井の中の蛙にならないように、外の世界に目がいくように心がけておくのは重要だ。

一昔の大学人だって、自分で言ってる「学者バカ」なんて謙遜じゃなくて、そう言っていたら許されると思っている甘えだ。

振り返ってみると、こんな風に仕事場近くに出かけて、大企業勤めの次男に会うのは、後にも先にも一度だけだ。

07/12 朝、相談室は新規ケースと経過のある不登校改善カップルの二件。終了後大津へ。家裁で新件の調停一回目。いわくつき、なるほど。そして一度仕事場に戻る余裕などなく、草津の勉強会に。フリートークで、盗む子、嘘をつく子の話。

07/13 タイムスケジュールを綱渡りのようにこなしている。準備時間に制限が出てきているのがきつい。朝はいったん仕事場に出て、今夜のトーク2001の準備。そして大津に戻って家裁に。調停二回目の親子である。穏やかを装っていた爺さんも、時間が経つと正体があらわれる。日本語のあいまいなこと極まりない一家。孫娘の躰ひとつまともにできないで、音を上げて、自分の娘を批判する。いい歳して何を言ってるんだと思う。結構暇がかかって京都に戻る。

結局、冊子は二つ折りにできないまま持ってぱるるプラザに。長谷川さんと支配人に手伝ってもらって完成。いつもよりちょっと少ない目の五〇人弱の参加。暑いさなかに上出来である。典子と京都駅ビルの回転寿司を食べて帰宅。

調停の仕事を5年で辞した。だんだん新件を受けなくな

ってフェイドアウト的に最後にした。一番の理由は、ここに訪れる人たちが真面目ではないと思ったからだ。

嘘つきなのである。言い方を変えれば、それを自分の言い分だと思っている。ばれなければ何を言っても良いし、批判される筋合いはないなんて思っている業界だった。

いろいろ思うことはあったが、カウンセリングの世界で長くやってこれた理由の一つは、それでも何とかしたいと願いを持って居る人とあえたからだ。

白黒付けるという結論がつかまらない。そういう意味では調停は悪くないのだが、弁護士が入ってきて、裁判にしてくれと言っている方も、言われている方も、人間としていかなモノかと思うような司法内ストーリーしか持てない人たちが多かった。

流儀が違うのだと思うから、そのゲームからは降りたいと思った。

07/14 教員のための家族理解ws三回目。サブシステムがテーマ。話しながら、時代が携帯電話で自他境界を壊しつつあることに気付く。一日楽しく学んでいただいているようで安心。18:00 までを長丁場だとも思わずやりきる。いったん仕事場に戻って、明日からの群馬行き準備である。メールの返信もだしておかなくちゃ。いどもに約束したことも問い合せて調べておかなくちゃ。

当時、電波という侵入物に学校、教室という場が、何の知恵も持たなかった。受信機である販売物に関する取り決を「校則」として語っていただけだ。

今振り返れば分かることだが、ケータイ電話は、ケーターからスマホへと進化し続けた。一方、校則は力もないまま、陳腐な後追いを今も続けている。

コンサートホールや劇場空間はスマホの電波が圏外になるように設定されているところが増えた。そういうことは可能なのだ。

規制緩和と野放し、やり放題の区別をつけないでどうするのだと思う。

07/15 九時三十四分京都発のひかりで東京へ。新幹線乗り継ぎで、高崎から前橋に到着。S井さんに迎えられて「ぐんま思春期研究会」の会場へ。

近年ますますその印象を強めている、親の側の自立援助力低下を、具体事例をあげながら話す。終了後、S井さんの車で伊香保温泉までドライブ。一時間ほどの行程。二十年ぶりくらいの伊香保だ。PCAの第一回合宿で平木さんと初めて会ったのがここ。

夕食後、十人で家族面接ビデオを見ながら事例検討会。親子に見えず、夫婦に見えない三世代家族。施設入所少年の一家。母親の非常に不活発なのが目につき、抑鬱を疑うが、はたしてそうであった。

二件目は緊張感のかけた母子三人。父親は直前に欠席。活発でいい加減な家族。小学校六年生で繰り返される万引きがあり、半年ばかり日に三本の煙草をすっていたことがあるとか。なんだいそれ！といたいくなるエピソード。自分に見えることがことごとく意味を持っていたりするので、まんざらでもない気分になる。



07/16 八時頃おきて朝食に。部屋で児童心理の校正。今日、明日は群馬県主催の家族療法勉強会。最終的に91人の参加申し込み。さて実際はというと、欠席者もある一方、申し込んでなくて当日参加もあり、結局90名。すごい人数の会になった。企画者は大満足だろう。この中から地域ネットワークのキーパーソンになってくれる人が輩出してくればいいのだ。レクチャーの後、デモ面接にT君が拳手してくれて開始。一日目にぎやかに終了。中央児相の事務室から「児童心理」校正原稿をfax送信。その後いつものロイヤルホテルのレストラン個室で、養護施設職員4人とさんで食事。9時半頃までサービストーク。ホテルに戻って1時就寝。

07/17 7時半過ぎに起きて朝食。公所主催の研修会なので、9時開始。しかしなかなか定刻には集まらない。30分ほど調整トーク。一徳ビデオを見て考えるプログラム。午後は事例提供して、検討。順調に終了。時間にゆと

りがあると、少々くどくなる癖がある。さて80人ほどのなかから連続的に学ぼうとする人が何人あらわれるか。

駅に送ってもらって東海道新幹線乗り継ぎを尋ねると、米原一岐阜羽島間集中豪雨のため現在運行を見合わせているという。なんだ、なんだと思いつつ東京へ。到着時間丁度に運転再開の報せ。運のいいこと、一応指定席券を購入したが、ホームにいた出発待ちひかりの自由席にのる。その結果、通常よりも早めくらいに京都に。明日は夕刻からの仕事。

群馬での継続WSはここから始まった。数年通い続けることになったし、そのメンバーの人たちが各部署でリーダーになり、管理者として組織を活性化させていった。今も音信や交流のある人もある。群馬で児相研セミナーも開催された。

07/18

怒濤の一週間が終盤を迎えている。なんとか乗り切った。今夜は門真に行って、明日嵯峨野高校で出張三昧は一区切りだ。

地下鉄をおりたところで、引きずっているトランクの上に置いていたカバンが落ちた。いやな予感で中からポータブルdvdを取り出してスイッチを入れたが、映像がでない。あーあ、壊れてしまっている。液晶は落下に弱いという話をきいたところなのに、ものの見事にである。しかしその時のがっかり具合が低レベルであったことにも驚く。モノで気持ちがゆさぶられる度合いがホント小さくなった。ただ、修理に持っていかなくちゃならない。その手間が面倒…。そうだ、図書館の本も返却しなくちゃ、督促がきている。門真の勉強会の準備をしていて気がついたら、出発予定時刻を過ぎていた。あわてて京阪電車に。寝屋川駅で同じく遅くなっていたKさんに鉢合わせ。Yさんは、駅前の車中で待っていてくれた。

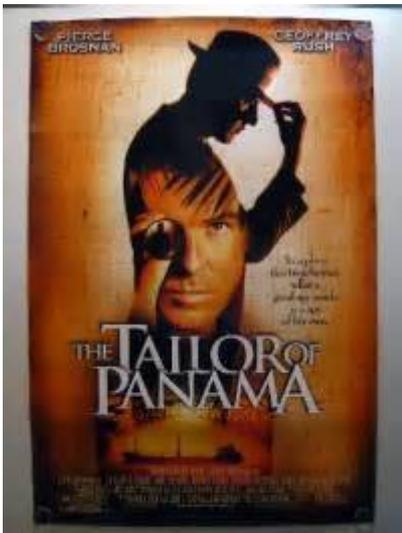
「必要ですね」と、携帯電話の番号交換する。それにもかかわらず後刻、登録されていないのを発見。まったく、手持ちの道具ひとつまともに操れない。

待ってくれたYさんは、結婚して関東に移動した。そして10数年後、神奈川のNPO主催のWSの講師として呼ばれたのだが、事務局は彼女だった。

長期展望での取り組みには、関係者の異動や、転身も含まれている。そこにしかないのではなく、他の場所にも、更に時が経ってもなのである。社会システムに変化を処方するとは、そう言う息の長い繰り返しの営みだ。

07/19 朝は相談室。このところ、どの曜日にも新規ケースは減っているらしい。暇なのは結構なのでゆっくり、アレコレ雑用を片付ける。午後は嵯峨野高校PTAで講演。高校山岳部時代の同級生Hさんの依頼。Kくんの娘も通っていた「こすもす科」がある高校だ。女生徒が7割近いそう。快調に終了して、仕事場に戻ると芳賀書店からの封書。変な感じであけてみると、出版ができなくなったという断り。なんということだと思ふ。自社事情と社会情勢ばかり書いた挙げ句、こちらの作業が遅いのでこうなったみたいな言い回しに呆れる。これでは出せたとしても、とたんに倒産なんてことも考えられる。このところ、出版話は立て続けに不調である。文春新書が快調なのがうれしい。出版の不況は、こんな無礼なことを平気でやるようになってきているのか。

壊れたDVDの修理依頼に久々の自転車で。寺町のタニヤマ無線でDVDソフトを眺めたりして楽しむ。久しぶりにゆっくり遊んだ気分。上映時間を調べて、「テラー・オブ・パナマ」を観に。狙いすぎかなと懸念はあったが、案の定、失敗だった。ジョン・ブアマン監督に3000点のつもりだったが、はらたいらに3000点にするべきだった。ともかく予告編は楽しかった。今月末は映画三昧にしたいものだ。



今では通じない時代の冗談。はらたいらに3000点

は、巨泉のハウマッチという番組のパターン。

出版話はこの頃からドンドン苦しくなって今も進行中なのか。この時、計画して完成間近だった本「ちんちんがやってきた」は別の出版社から出た。そして、絶版にもならず、今もロングテール商品としてネットで見かける。

07/20 海の日。超久しぶりに約束のない一日。マイペースで過ごせる。金剛出版の石井さんから、性教育本の出版のことで、見てみたいとEメールで言ってくれたので、「一癖ある心理臨床家の作りかた」の連載コピーと一緒に送る準備。明日のWSのレジュメ。月曜日の茨木天王小学校講演の準備。

07/21 教員のためのWS第4回。終了後、いったん浜大津の戻って準備をして湖西線マキノ駅へ。ぼむの釣行である。みんなは既に今日一日やっている所に合流する。白谷温泉八王子荘、ってどこだ？ 二十一時過ぎに駅について、タクシーを呼ぶと、「十五分ほどかかりますけど、本当に待ってますか？」と言われて驚く。人気のない駅前で、カメムシの飛んでくるのをはらいながら待つ。考えてみるとフライロッドに触るのは前回の釣り以来。何の準備も工夫もない、最低のフライフィッシャーである。着いたのは何とも言えない宿。「老人憩いの家」と看板。宿泊客なんていない。夕刻は、温泉だけに入りに来た客でごった返していたらしい。朝霧駅の花火大会事故のニュースをきいて、想像力のない人間ばかりの不注意時代になっていると思う。素人ばかりで、勝手な思いつきイベントで人を集めたりしていると、こんな事になるのだ。

07/22 六時起床で、知内川の支流八王子川上流で釣り。何もかからないし、釣れない。場所を変えてさらに少々。しかしまったくかかる気配なしに近い。それでも坂口と、川辺で四方山話をして楽しんでいる。いい気分だ。小物が何匹かあがった人もあったが、釣果のないまま陽が昇って終了。朝食後ゆっくりして、ドライブを経てブルーベリーの里のレストランに。なかなか美味しいランチ。こんな山のなかにこれだけの集客は、立派なもの。野々口に乗せてもらってケーキ屋に寄ってから帰宅。夕食後、「千と千尋の神隠し」のレイトショーにあって驚く。なんとチケット完売、売り切れである。アーカスに入れられないなんて、どうということだと思いつつビデオを借りて帰宅。

今も、釣り旅行と称した温泉旅を漫画家仲間と継続中。フライフィッシングはイメージとして美しい。でも、自然溪流で釣れるほど上達しなかったし、したいと思っても居なかった(私は)。テンカラ竿で釣れない川に、二三度キャストイングして、ぐだぐだ喋って、魚を追いついていたら十分だ。いつも言うように、キャッチする前にリリースしている。彼岸に殺生するモノではないと南光さんは語るが、私は年中殺生しない。できない。

40年付き合いの漫画家親父達と、10年以上フライフィッシング。例会では基本的に毎月会う。継続は力なのである。

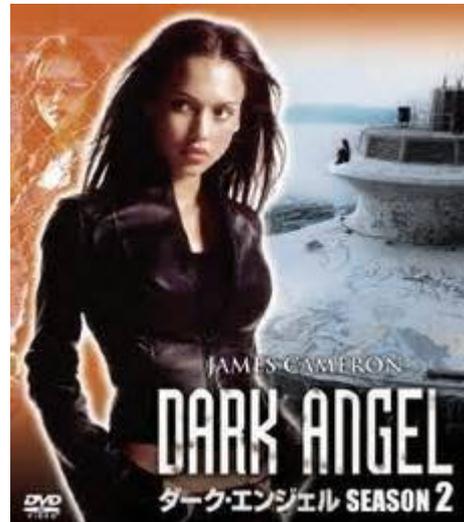
07/23 朝から茨木市の天王小学校、校内研修会に。勉強会にきていたY田さんの斡旋。校長にあつて話すと、春日丘高校の同級生T君だという。記憶も面識もないが向こうは名前は知っていた。茨木市のY口やK瀬、H田等の連れである。おもしろおかしい二時間を過ごしてもらって終了。

あまり暑いので、そのまま京都に戻る。仕事場 D・A・Nに戻って、戸口の「管理会社にお電話下さい」の張り紙に首を傾げたが、ドアを開けて納得。玄関入ったところ水浸しである。電話で聞くと、五階の住人の洗濯機の蛇口が外れて水道が全開のまま水びたしになった模様。全くまいったなあ……。管理会社の社員が掃除に来てくれて、損害について聞いてゆく。上の住人が損害を補償するという。DVDの破損、出版企画の直前オジャン、マンションの水浸し、ああこれで三つの悪いことが終了か。そう思うと、そんなに被害が大きいわけではなかったもので、良かったと思ったりする。修理、修復すればいいモノばかりで、有り難い。

E県児相から虐待イベントで講演の依頼。しかし予算が決まっているという。一応、こちらの定価を話すとちよつと検討をといった後すぐ、断りの電話。あまりにも余地のない反応に驚く。遠方から二日取られて、その言い値ではあわない。基本的には自分の提示価格を守ろうと思ひ直す。

今日こそと思って「千と千尋の神隠し」レイトショーへ。思ったとおり今夜も列ができています。入場は十分でしたが、時には私一人のこともあった映画館で、こんなにたく

さんの人が・・・と宮崎駿監督の力に驚く。そして実際映像はまたまた物凄い。こんなイマジネーションはどうしたら湧いてくるのか・・・と絶句。宮崎作品のなかでもかなり好きな一本だ。帰宅して夜中、ジェームス・キャメロン「ダーク・エンジェル」(1)を観る。そこそこ面白いのだがテレビシリーズだなと思う。



講演の謝金など定価のあつてないようなものだ。だから法外な芸能人のギャラもあれば、交通費に負けるような既定も存在する。

フリーで仕事を始めた頃、行けばいくらにはなるが、断れば一円にもならない現実と遭遇した。更に、多くは大学の教員など給与保障のある身分の人が大半を占めたため、暗黙の了解として、「他にちゃんとお給料貰ってるんだから、これで来てくださいよ」と言うメッセージが蔓延していた。

これでは駄目だと思った典型が、最後まで謝金の話はしない依頼だった。過去の繋がりもあつたので引き受けたものだった。

終了後に受け取った封筒を見て「そんなバカな」と思った。半日かけて出かけて、図書券5000円が入っていた。

このメカニズムが反映されて酷いことになっているのがスクールカウンセラー(SC)の世界だ。私はSCをしたことがない。臨床心理士ではないから依頼されなかったこともあるが、ルールがいい加減なのが好きになれない事とも大きく関わっている。

SCは最初、当時のカウンセリング業界(一部には、個

人開業の人や、カウンセリング料を決めて面接していた人はあった。当然そこには、当時の目安金額があった。概ね3000円～5000円だったと思う)からすると、法外な価格設定でスタートした。

カウンセリング経験の長短にかかわらず、時給7000円とか聞いた。時の勢力が後押ししていた時期だったのだろう。半日4時間で28000円。半日ずつ週二回を、他勤務との関係で一日にまとめて日給56000円。週一勤務で月給224000円だという。

これこそバブルだろうと思った。大学の教員が週一でSCを引き受けて、この支払いを受けていた。それに、依存的な新卒SCも乗っかっていた。

私は法外なことなど続かないし、社会の標準から外れた優遇は、必ず問題の火種になると思っていた。そして実際、ダンピングの繰り返しと、ドンドン卒業する臨床心理士に仕事をと言うので、臨床心理系大学院の教員は卒業生をSCに配置した。その結果、既得権者の年配SCは仕事が減った。と言うことは、赴任校が減らされるということだった。三校に行っていたものが二校に。二校に行っていたものが一校に。それは給料が三分の二、半分になるということだった。

こんな事が起きても、働いていたSCは文句を言わなかった。自分たちの身分問題を大多数が大学教員で構成された府県の臨床心理士会に委ねていたからだ。

今、SCは国家資格問題でも、給与問題でも、厳しい状況を抱えている。今だけを語れば、いろいろ事情があることだろう。私は内部の者ではないから、知らないこともあるに違いない。

しかし、忘れてはならないのは、物事の社会の中での成り立ち方である。自分にだけ都合の良いルールや仕組みが定着することなどない。

どのような制度設計や規定だと説明されても、納得のいきにくい好条件は用心が必要だ。

お金の話はみんな苦手なようにふるまう。拘っていないかのごとき見栄を張ることを日本人は過剰に世間から学ばされる。そして、世界に向けても、「金のことばかり言うな！」と気取っている。その口調で近隣諸国に上から目線の苦言を呈している。

若者達はpかねを使わない満足を希求し始めている。多くを望まないで、幸せに暮らす。自己満足は出来るだ

ろうが、その人自身が持たされていたはずの使命感は消えてしまうのではないか。

07/24 大学院前期最終の日。午後は仕事場で「晩年学F通信」の原稿完成。「児童心理」の原稿おおかた完成。金剛出版の石井さんから、とても面白く読んでいる。さっそく「一癖ある心理臨床家の作り方」の出版企画が通ったとメール。うれしかぎりである。夕刻から立命へ。創思館ボックスで先週のテープを受け取る。研究室で、聞き始めるが、中村さんのはなし、面白い。今日は前期最終の、全体説明。その後、勘違いで臨床心理領域の説明会に入ってしまう。Tさんはやっぱり変だと思う。学生をなめているのか、子供扱いしているのか。とにかく不思議感拭えない。村本さんが後で、ブーブー。

07/25 今日は一日仕事場D・A・Nに。コロラドで木陰のプラン。部屋の水漏れは止まらないし、クーラーからも水漏れ。まるで水浸しマンションだ。昼食に出ている間に、管理会社の人が入って天井の電気設備のところに穴を開けている。漏電していたようだ。なんだか凄いことになっている。「児童心理」の原稿完成。家裁の記録完成して郵送。19時にIさんがSVIに来談。専門校で授業を始めたことや、施設利用者間の恋愛沙汰のメカニズムなど、22時まであれこれ話す。

07/26 朝、約束の時間に空調設備会社の人が来てくれる。階上の水漏れとは関係なく、排水が詰まっていたようで掃除してくれた。きちんとメンテナンスをしてくれる人に感謝である。たまたま昨日、久しぶりにアドレスを目にしたのでメールしておいたら、大学の同級生タッキーから返信。

頼まれていた全国情短施設研修会にYくんを訪ねてゆく。ホテルを借りて、完全に昔型の研修会である。情短はほんとうに目的に見合う機能が出来るものとして動きだしているのかどうか、分からない気がする。ないよりはある方がいい、昔そう思っていた前提を崩された記憶は今も鮮明だ。本当はこの世界で、一緒にやってくれないかという声がかかってもいいのだろうが・・・

連日、水漏れの話連発。長い賃貸マンション利用の中で、初めてで、おそらく最後のトラブル。滅多にこういうハプニングには遭わないのだが、この時は参った。

07/27 KISWEC嵯峨野WS、出向く前に仕事場に。クーラーかけるとまた水漏れ。直っていないじゃないか。親切そうな奴だったが技術者の未熟にも困ったものだ。管理会社に電話しておく。でも今日から三日間は不在。

今回のWSは27人と少なめ。しかし、これくらいの方がなにかにつけて運営しやすい。川畑くんのオープニングトークから開始。夕刻、決定をキーワードの初期インタビュー実演と訓練。夜は例によって、22時から講師室に千客万来。

07/28 二日目。朝から一日家族作りと面接展開。小グループ、張りつきの日。夜は少ない情報からイメージを使っただけの事例検討の練習。京都南部は昨日から大規模断水。川畑くんの家はたいへんそうだ。

07/29 三日目。午前中は早樫君がいつものNAKATUK Aビデオを使ってセッション。午後の質問コーナー、早樫君は仏教大学の通信スクーリング出講で不在。

KISWEC家族療法訓練 STEP1, STEP2を嵯峨野の施設で合宿形式でしていたのはこの頃までだろう。施設の運営母体が変わってしまい、いろいろ変化せざるを得ない中で、新築なったセンターの建物で開催が変わった。そして合宿形式でもなくなった。その方が現代的なのだろうが、形式の持っていたのりしろ部分の良さは減じた。



07/30 やっとゆっくり出来る夏休み。もらい物の株主優待券で「猿の惑星」へ。まあこんなものだろうと思っていた程度の映画。でも納得。映画館が混雑しているのは良いが、ざわつくおばさんに注意する。

ゆっくり本屋を散歩。ポブ・グリーン新作「デューティ」、  
「千尋と不思議の町」、「好きになっちゃったイスタンブール」三冊購入。

道中スタバで「発達」の連載原稿、「知的発達障害と家族援助」の原稿案を書く。木陰の物語新作はフィニッシュして発送。

まったく郵便局の不在時の小包み対応は腹立たしい。取りに来ないなら返送するからね！が最初に書いてあるような文書を入れておくな！でも仕方ないので、同志社女子大からのレポートを局まで取りに行く。久しぶりに自転車に乗る。

帰路途上の喫茶店で開封、半分採点する。あまり内容がない。こちらの情熱が冷めてきたのだろうか・・・。

07/31 火曜日。そこそこの時間に出掛けて、コロラドであれこれプラン。女子大の採点済ませて記入。仕事場のクーラーの水は元気よく落ちる。もはや楽しみである。夜はKISWEC訓練の最終回。Uが思いのほか力のないことに気付く。若いということを差し引いても、K、S、Uと似たタイプの腑甲斐なさをKくんが抱えている気がするのももつとだろう。女性の方がバイタリティがある。

夜中、期待してみた「ブルー・オブ・ライフ」、何だか冗長な映画だった。もっと短くテンポのあるドラマにすればいいのにと考えた。

今より多忙な日々を過ごしながらか、夜中にせっせとDVD を見ている。好奇心と時間配分の変化なのだろうと思うが、もう少し映画は観たいと思う。

キネマ旬報を毎号配達してくれていた街の書店主が体調を崩したとかで閉店してしまい、配達されてないことにしばらく気づかなかったという迂闊さも手伝って、30年以上継続購読していたキネマ旬報から遠ざかった。そうしたらしばらくして、映画情報に疎くなっているのに気づいた。

一番顕著だったのは、機内で映画を見る機会があったとき、ほぼ事前情報がない事態だった。今から公開される作品について、何も知らなかった。

一番顕著だったのは、機内で映画を見る機会があったとき、ほぼ事前情報がない事態だった。今から公開される作品について、何も知らなかった。